

■九州朝日放送番組審議会議事概要（9月分）

第586回	九州朝日放送番組審議会 議事概要
開催年月日	平成28年9月13日（火） 午後4時00分～5時30分
開催場所	九州朝日放送 本社役員会議室
出席者	<p>委員総数 8名  出席委員数 7名  欠席委員 1名（レポート提出）</p> <p><b>（出席委員）</b>  光富 彰委員長、宮田 克彦副委員長、鶴 利絵委員、三好 京子委員、藤田 ひろみ委員、古宮 洋二委員、井手 雅春委員</p> <p><b>（放送事業者側出席者名）</b>  代表取締役社長 和氣 靖  専務取締役編成制作局長 半田 俊彦  取締役ラジオ局長 清水 透  報道局長 松延 健次  報道局次長兼報道部長 臼井 賢一郎  視聴者・広報室長兼審番事務局局長 久芳 康治  事務局員 古賀 香織(テレビ)、松田 泰久(視聴者・広報室)</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>ディスカッション 「テレビ朝日系列の報道について思うこと・望むこと」</li> <li>平成28年9・10月ラジオ・テレビ番組編成状況の報告</li> <li>平成28年7・8月視聴者・聴取者応答状況の報告</li> <li>その他</li> </ol>
議事の概要	<p>◎委員の意見（概要）</p> <p>委員からは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○望むことは放送法4条の順守にある。4条は公安及び善良な風俗を害しない、政治的に公平であること、報道は事実をまげない、意見が対立している問題についてはできるだけ多くの角度から論点を明らかにする、とある。権力に対するチェックがマスコミの本分とするならばマスコミも1つの権力なのでマスコミ間でもそれぞれのチェック機能を十分に活かして欲しい。</li> <li>○報道を考えると、まず考えられるのは、憲法によって保障された言論の自由に裏打ちされた「報道の自由」であり、報道に関わる一人一人が、事実を丁寧に取材し、国民の利益のためには恐れずに報道を行ってほしい。</li> <li>○高市総務大臣の「停波発言」により報道の現場で過度な自粛が実際に起きているのかどうかを「原発報道」など、タブーととられているテーマで検証してみるのも良い機会ではないのか。</li> <li>○テレビ朝日系列と言えば「報道ステーション」である。「ニュースステーション」での自分の言葉で物を言うキャスター久米宏さんの登場は画期的だった。古館さんを経て、今の番組に至るまでその流れは続いており、これからも大切にしたい。</li> <li>○「報道ステーション」はメインキャスターが局アナに交代したことにより、ワイドショー的な色合いが弱まった印象で報道の中立性に配慮した番組へシフトしているように感じる。反面、番組の特徴が見えにくくなっているようにも感じる。</li> <li>○かつての市民団体は反権力側として声をあげていたが、マスメディアを批判する時代になってきている。報道する側の立ち位置の確保も難しくなる中で「報道ステーション」の富川キャスターは、古館さんとは大きくキャラが異なるものの好感が持てる。</li> <li>○「テレメンタリー」は事件や事故の背景にまで踏み込み、通常の報道を補完する優れた番組だと思うので、通常のニュース番組の中で特集のような形で取り上げられることを希望する。</li> <li>○災害報道に限っては、系列を超えた協力もあり得るのではないかと。</li> <li>○災害報道は被災者を見せる報道ではなく、被災者が見る、被災者に寄り添った報道をお願いしたい。</li> <li>○コメントーターの質的向上を求めたい。至極あたり前の凡庸なコメントを「主婦目線」と言ってほしくない。</li> <li>○テレビ朝日系列の報道は朝日新聞に影響を受けているのでは。</li> <li>○取材の自由は国民の知る権利に資するものであるが、公益性・公共性を有する範囲に限定されたものであると考えた場合、取材活動が行き過ぎないようなガイドラインはどうなっているのか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">などの意見を頂きました。</p> <p>これらに対して、担当者から、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○公益と個人の人權のせめぎ合いは長らくのテーマであり、報道のガイドラインも5年位ごとにまとめており、KBCにおいても「アサデス。」などにも時々、活かしながら制作にあたっている。ベースには民放連「報道指針」がある。</li> <li>○災害報道の系列を超えた協力は実際問題としては難しい。ただヘリコプターの飛行や被災者への取材の仕方などで規制をするなどの協力はしている。</li> <li>○災害報道は被害の状況を伝えるだけではなく、KBCでは風評被害で困っている人たちの所を訪れ、長期に亘るトータルでの支援に取り組んでいる。系列他局としても同じである。</li> <li>○災害時、被災者に見てもらおうか、被災者を見てもらおうか、具体的に両面にどう伝えるのか、常に考えてトライしていかなければならないと思っている。</li> <li>○日々の報道番組を制作するにあたって弊社も東京キー局も朝日新聞の論調に影響を受けることはない。</li> <li>○「報道は継続的でなければならない。」このことはその場、その場だけではなく地域報道の基本理念だと考える。</li> </ul> <p style="text-align: right;">などと発言しました。</p>